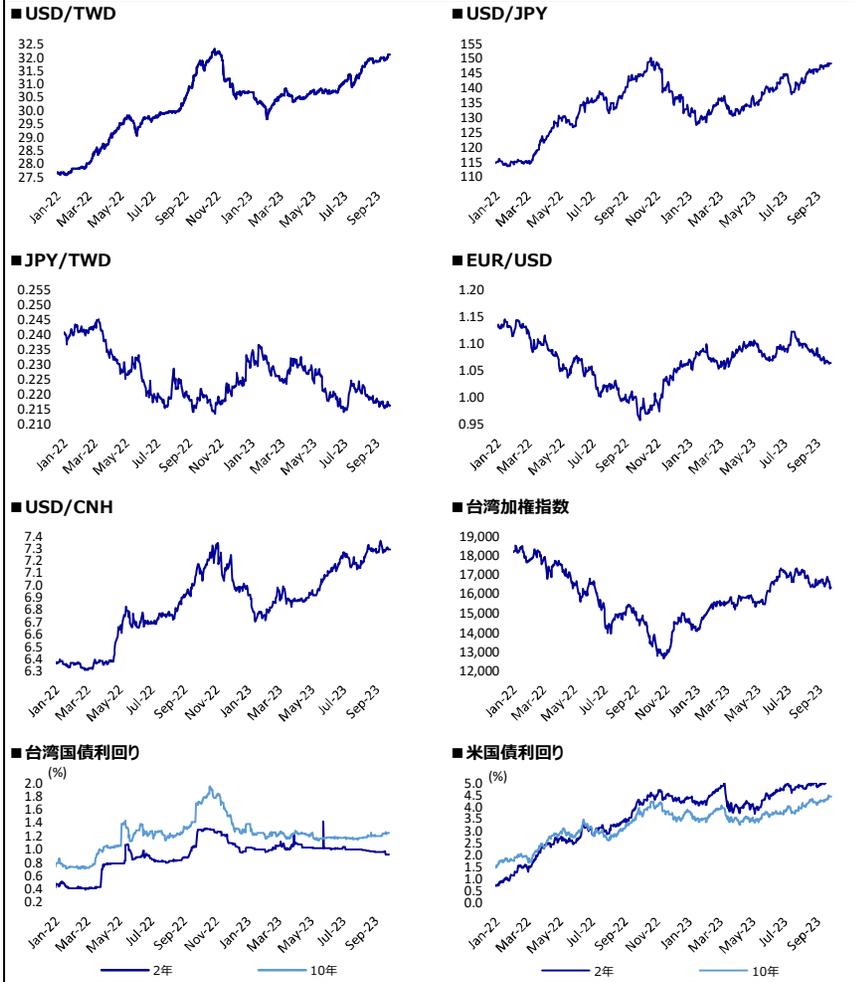


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初9/18は31.940でオープン後、大手半導体株が売られ、台湾株が下落したこと、輸入企業のドル買いを受けて上昇。輸出企業のドル売りが上値を押さえたものの、31.9台後半で推移。9/19は軟調な台湾株と人民元安を背景に台湾ドル売りが優勢となり、32台に乗せた。9/20もFOMCを控えているものの、台湾株安と人民元安が材料となり、32.0台半ばまで上昇。9/21はタカ派なFOMCの結果を受けて米金利が上昇したことから、台湾株安台湾ドル安の流れとなり、32.1台半ばまで上昇。9/22も前日の流れから一時32.194まで上昇し、直近の高値を更新。しかし、高値圏では輸出企業等のドル売りが入り、上値は押さえられ、32.1台前半で推移。9/23は土曜営業で閑散相場となる中、狭いレンジで推移し、最終的には先週比0.6%ドル高台湾ドル安の32.122で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1,054.1億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/18は147.85でオープン後、日本が休場の中、中銀イベントが控えていることもあり、方向感なく、レンジで推移。9/19は米金利の上下に連動しながらも147円台後半のレンジで推移。9/20はFOMCの結果発表を控えレンジで推移していたが、FRBの引き締め姿勢を警戒してか、発表前に約10か月ぶりに148円台をつけた。その後、147円台半ばまで戻すもFOMCの結果が発表されると、予想通り政策金利は据え置かれた一方、年内の1回の追加利上げや2024年の政策金利の上方修正が示され、ドル買いで反応し、148円台前半まで上昇。9/21は前日の流れから一時148.46まで上昇し、年初来高値を更新。しかし、米金利の上昇が一巡すると147円台後半まで下落。その後、米新規失業保険申請件数が予想より良好な内容となると一時148円台を回復するも長続きせず、米短期金利が低下する展開に連れ安となり、147.32まで反落。9/22は日銀の金融政策決定会合の結果発表待ちで147円台後半のレンジで推移。日銀が金融政策の維持を発表すると148円台前半まで上昇。植田総裁が会見でも緩和を維持する姿勢を見せると、市場の政策変更への期待を後退させ、148円台半ばまで上昇。しかし、介入への警戒感もあり、上値は重く、148円台前半での推移が続いた。最終的には先週比0.4%ドル高円安の148.39で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.900-32.250
今週は上値が重い展開を見込む。先週はタカ派なFOMCを受けて、ドル高の流れに昨年の最高値32.345に近づいているものの、今週は四半期末の月末のため、輸出企業のドル売りが見込まれ、上値は重いであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：147.00-149.50
今週は底値が堅い展開を見込む。先週はFOMC、BOJと金融政策を発表したが、改めて日米の政策の違いが認識されたことで、ドルが買われやすいであろう。ただし、ドル円は年初来高値で推移しており、介入への警戒感もあり、上値も重いであろう。

今週の予定

9/25 (MON)	
9/26 (TUE)	米9月消費者信頼感指数、米8月新築住宅販売件数
9/27 (WED)	米8月耐久財受注
9/28 (THU)	米Q2GDP確報値
9/29 (FRI)	米8月個人消費・支出

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。